

本书初版曾入选  普通高等教育“十一五”国家级规划教材

 “十二五”江苏省高等学校重点教材

にほんご

(第2版)

日语 泛读

总主编 成春有 张胜芳

4

主编 游衣明

中国科学技术大学出版社

本书初版曾入选  普通高等教育“十一五”国家级规划教材

 “十二五”江苏省高等学校重点教材

にほんご
日语
泛读

总主编 成春有 张胜芳

4

主 编 游衣明

副主编 万 枫 高艳丽 汪春成

参 编 严 桢 卢冬丽 胡志强 郑 岚

内 容 简 介

本套教材初版曾入选普通高等教育“十一五”国家级规划教材,此次改版后又荣获“十二五”江苏省高等学校重点教材、“十二五”江苏省精品教材等荣誉。本书共有 16 课内容,每一课均由数篇主读课文、单词解析、译文注释、课后练习以及阅读技巧等部分组成,所选内容涵盖日本的人文常识、礼仪文化、经济形势、科技知识等各个方面。每一课的最后还增设了日本语言文化栏目,旨在通过浅显的语言与事例介绍日本的语言文化,加深学生对日本语言文化风俗的理解,从而全面提高学生的日语阅读理解能力。本书可供日语专业三年级学生或与其相当水平的自学者使用,可助其达到日语专业八级考试阅读理解水平。

图书在版编目(CIP)数据

日语泛读.4 / 成春有,张胜芳总主编;游衣明主编. — 2 版. — 合肥:
中国科学技术大学出版社,2016.6

ISBN 978-7-312-03954-6

I. 日… II. ①成… ②张… ③游… III. 日语—阅读教学—高等学校—教材 IV. H369.4

中国版本图书馆 CIP 数据核字 (2016) 第 160734 号

出版 中国科学技术大学出版社
安徽省合肥市金寨路 96 号, 230026
<http://press.ustc.edu.cn>

印刷 合肥市宏基印刷有限公司

发行 中国科学技术大学出版社

经销 全国新华书店

开本 787mm × 1092mm 1/16

印张 15.5

字数 321 千

版次 2011 年 2 月第 1 版 2016 年 6 月第 2 版

印次 2016 年 6 月第 1 次印刷

定价 30.00 元

前 言

《日语泛读》是普通高等教育“十一五”国家级规划教材，是“十二五”江苏省高等学校重点教材，曾获江苏省高等学校精品教材称号。

《日语泛读》是为高等院校日语专业学生或有志于自学日语者编写的教材，迄今已使用了7年。根据各院校师生在使用过程中的反馈意见，该教材较好地体现了《高等院校日语专业基础阶段教学大纲》和《高等院校日语专业高级阶段教学大纲》的基本精神，在提高学生阅读能力的同时着重培养了学生综合运用日语的能力。然而，随着普通高校日语专业学生水平的不断提高以及使用本教材学校类型的增多，有必要在保持原有亮点的基础上对教材的整体结构和内容进行完善和提高。

第2版教材保留了第1版中关于日本文化、日语学习策略等方面的内容，注重选用适合国际日语能力考试和高等院校日语专业四级或八级考试阅读理解的日文材料。新选材料涉及日本历史文化、经济评论、动漫、礼仪、创新性思维等方面。另外，依据21世纪日语专业四、八级考试和国际日语能力考试的新题型，对原教材中的练习进行了相应修订，练习的题型和内容都紧扣日语专业四、八级考试和国际日语能力考试。

本教材一套4册，每册16课，每课围绕一个主题，由一篇长篇文章及数篇短文组成，生词采用边注形式，有助于学生排除阅读障碍；文后附有注释、难句译文以及3种练习题型。第1、2册注重基础阶段阅读练习，构筑学生阅读理解的基本知识结构，使其达到国际日语能力考试N2级和日语专业四级考试要求的阅读理解要求，主题性文章后的练习题型为主观题（汉字写假名、假名注汉字、



造句)和多项选择题(主要考查对文章和词句的理解)。第3、4册注重培养学生高级阶段的阅读理解能力,使其掌握较高层次的阅读技巧,达到国际日语能力考试N1级和日语专业八级考试的阅读理解要求。

为了培养学生的阅读理解能力,本教材设置了“阅读技巧”栏目,分析各类文章的特点、所需掌握的重点、重要词汇的查找和与其相关词句的搭配关系。重点培养学生在阅读日语文章时紧紧抓住指示代词的关键作用,掌握它的指代内容。为了开阔学生的知识面,拓展学生的视野,帮助学生更好地理解文章,本教材还设置了“语言文化”栏目,让学生了解和掌握语言文化知识。第1、第2册“语言文化”栏目原文引用了森田六朗先生的《读懂关键词 看懂日本人的内心》(商务印书馆出版)10篇文章。引用文章得到森田六朗先生以及商务印书馆、日本アスク出版方面的同意。

本套教材由南京农业大学、南京林业大学、南京工业职业技术学院、南京邮电大学、南京航天航空大学、安徽外语学院、盐城工学院和铜陵学院共同编写和修订。我们希望第2版不仅能帮助学生扩大知识面和词汇量,适应大学日语专业四、八级考试和国际日语能力考试的新题型,增强日语阅读理解能力,而且能帮助学生提高运用日语学习策略和跨文化交际能力,养成独立阅读的习惯,进一步提高日语运用能力。

《日语泛读》编委会

2016年4月

目 次

前 言	I
第一課	001
第二課	011
第三課	022
第四課	033
第五課	047
第六課	058
第七課	070
第八課	080
中間テスト	091
第九課	096
第十課	105
第十一課	116
第十二課	128



第十三課·····	136
第十四課·····	146
第十五課·····	155
第十六課·····	165
期末テスト·····	176
附录一 课文译文·····	181
附录二 语言文化广场译文·····	217
附录三 练习参考答案·····	230

（一） 科学者と芸術家との追求

芸術家にして科学を理解し愛好する人もないではない。また科学者で芸術を鑑賞し享樂する者も随分ある。しかし芸術家の中には科学に対して無頓着であるか、あるいは場合によっては一種の反感を抱くものさえあるように見える。また多くの科学者の中には芸術に対して冷淡であるが、あるいはむしろ嫌忌の念を抱いているかのように見える人もある。場合によっては芸術を愛することが科学者としての墮落であり、また恥辱であるように考えている人もあり、あるいは文芸という言葉から直ぐに不道德を連想する潔癖家さえまれにはあるように思われる。

科学者の天地と芸術家の世界とはそれほど相容れぬものであろうか、これは自分の年来の疑問である。

夏目漱石先生がかつて科学者と芸術家とは、その職業と嗜好を完全に一致させ得るという点において共通なものであるという意味の講演をされたことがあると記憶している。もちろん芸術家も時として衣食のせいに働けねばならぬと同様に、科学者もまた時として同様な目的のために自分の嗜好に反した仕事に骨を折らなければならぬことがある。しかしそのような場合にでも、その仕事の中に自分の天与の嗜好に逢着して、いつのまにかそれが仕事であることを忘れ、無我の境に入り得る機会の少なくないようである。況や衣食に窮せず、仕事に追われぬ芸術家と科学者が、それぞれの制作と研究とに没頭しているときの特殊な心的状態は、その間に何等かの区別をも見出しがたいように思われる。しかしそれだけのことならば、あるいは芸術家と科学者のみに限らぬかもしれない。天性の獵師が獲物を狙っている瞬間に経験する機微な享樂も、樵夫が大木を倒すときに味わう一種の本能満足も、これと類似の点がないとはいわれない。

しかし科学者と芸術家の生命とするところは創作である。他人の芸術の模倣は自分の芸術でないと同様に、他人の研究を繰り返すのみでは科学者の研究ではない。勿論両者の取り扱う対象の内容には、それは比較にならぬほどの差別はあるが、そこにまたかなり共有な点がないでもない。科学者の研究の目的物は自然現象であってその中に何らかの未知の事実を発見し、未発の新見解を見出そうとす

るのである。芸術家の使命は多様であろうが、その中には広い意味における天然の事象に対する見方とその表現の方法において、何らかの新しいものを求めようとするのは疑いもないことである。また科学者がこのような新しい事実に逢着した場合に、その事実の実用的価値には全然無頓着に、その事実の奥底に徹底するまでこれを突き止めようとすると同様に、少なくとも純真なる芸術家がひとつの新しい観察創見に出逢うた場合には、その実用的な価値などには顧慮することなしに、その深刻なる描写表現を試みるであろう。古来多くの科学者がこのために迫害や愚弄の焦点となったと同様に、芸術家がそのために悲惨な境界に沈淪せぬまでも、①世間の反感を買うた例は少なくあるまい。このような科学者と芸術家とが相逢うて②肝胆相照らすべき機会があったら、二人はおそらく会心の握手を交わすに躊躇しないであろう。二人の目差すところは同一な真の半面である。

（二） 話し手側の視点から見る

日常何気なく使っている言葉と言うものをさて文法規則で解釈しようと、なかなか思うようには行かないものである。

たとえば、朝出かけようとして、時計を見て「あ、もう時間だ」と叫んだとしよう。一体この「もう時間だ！」は文の構成から見て、どのように説明したらよいのだろうか。

主語は何か？「あ、もう（今は）時間だ」と解釈したら、「今」が「時間」と言う言葉になって意味を成さない、かといって「何が…」に当たる言葉をあれこれと考えても、ぴったり当てはまる適当な語が見当足らない。

ここでいう「時間」は、「時間と空間」とか「時間が経つ」という抽象的な「時の流れ」を言うのではなく、あくまで当人にとっての「出発の時刻」を意味するに過ぎない。これは司会者が講師に「先生、お時間です」と告げ、講師が話しが終わりに「ちょうど時間になりました。」と述べる、あの「時間」の使い方と同じで具体的な話の場面の中で、話者にとって特別の意味を持った「時点」を指示する働きであると言ってもよい。この点が「時間」と「時」の違いであるが、面白いことに、これらの文がいずれも特定の主語を想定することの難しい「無主語」文であるということで、これ小は話者がそのとき、心に感じた、ただそれだけの事柄として、「ああ、時間だ」と端的に述べた文だからであろう。



そのために、使用語彙も談話の場面と連動して、はなはだ具体的な個別的な意味となり、決して辞書にあるような無味乾燥な抽象的の意味内容とはなっていないのである。私たちが使う日本語、特に話し言葉にはこのような、その折々に心に感じ、目に映った事柄を、「外の世界に対する私側の視点」で表す言い方が極めて多い。

「鍵がかかっている!」「雨が降ったら涼しくなった。」「合格できて嬉しい!」と臨場感に溢れる表現ができるのも様態的な事象として解説する態度ではなく、その事象から受ける自己側の主観として把握する表現姿勢ゆえであろう。「鍵がかかっている」のような現象文による表現、「涼しくなった」と自己側の確実的態度を表す「た」の使用、「うれしい」と感情形容詞を用いて素直に自己の心を表明し、決して、「合格を喜ぶ」のような、動詞による第三者側の状態としてことを解説的に示すような態度はとらないのである。

以上の例からも分かるように、日本語は話し手が事項を取り巻く周囲の対象や場面に対峙して、そこから受ける状況として文を作り、語義を定めていく性格が極めて強い。外の世界を受け止める「話し手側の視点」を中心とした発想と言い換えてもよい。

従って、日本語の表現や文法・語彙・意味の特徴を考えるときにはこの点を心に入れて観察していく必要があるし、文法は文法、意味は意味として切り離して考えず、表現も文法も語彙も意味も互いに関係しあう「同じ幹から生まれた枝」として同時に眺めていく態度に徹することが肝心なのである。

(「話し手側の視点から見る」による)



単語

(一)

無頓着(むとんちゃく)	(名・形動)	不经心、不在意
嫌忌(けんき)	(名・他サ)	讨厌, 忌讳
潔癖家(けっぺきか)	(名)	洁癖者
相容れぬ(あいいれぬ)	(慣用)	不相容
嗜好(しこう)	(名・他サ)	嗜好
況や(いわんや)	(副)	更何况
窮する(きゅうする)	(自サ)	窘困



獵師（りょうし）	（名）	猎人
機微（きび）	（名）	微妙、些微之处
享樂（きょうらく）	（名・他サ）	享受
樵夫（しょうふ）	（名）	樵夫
逢着（ほうちゃく）	（名・自サ）	碰到、遇到
突き止める（つきとめる）	（他下一）	追究、探究
目差す（めざす）	（他五）	以……为目标

（二）

何気無い（なにげない）	（形）	不形于色，假装没事，泰然自若
無味乾燥（むみかんそう）	（名）	枯燥无味、无趣
臨場感（りんじょうかん）	（名）	临场之感
対峙（たいじ）	（名・自サ）	对峙、对抗

文 法

1. その職業と嗜好を完全に一致させ得るという点において共通なものであるいつのまにかそれが仕事であることを忘れ、無我の境に入り得る機会の少なくないようである。

这两句中都用到了“一得る”，“得る”接在动词的第一连用形后面，可以读作“うる”也可以读作“える”，但发生活用时都采用“える”的活用，表示“可能……”，常用的有“あり得る”“ありえない”，属于文言性书面语。例如：

○ 普通では起こりえないことが起こった。

（普通情況下不可能发生的事情发生了。）

○ あんな誠実な人が人を騙すなんて、ありえないことだ。

（那么诚实的人会骗人，是不可能的。）

○ その曲の素晴らしさはとても言葉で表し得るものではない。

（那首曲子的精彩根本无法用语言来表达。）

2. 科学者もまた時として同様な目的のために自分の嗜好に反した仕事に骨を折らなければならぬことがある。

这句话中的“骨を折らなければならぬ”的原形为“骨を折る”，除了表示“骨折”的意思之外，还可以作为惯用句表示“拼命……，尽力……，不辞辛苦”。例如：



○ 友人の再就職に骨を折る。

（为朋友的再就业尽一把力。）

○ 資金集めに骨を折る。

（不辞辛劳地筹集资金。）

3. 勿論両者の取り扱う対象の内容には、それは比較にならぬほどの差別はあるが、そこにまたかなり共有な点がないでもない。

句中の“比較にならぬ”类似于“比べ物にならない”，表示两者之间差距很大、不适合用来作比较，差距大得都没法用来作比较了。例如：

○ 京都と北海道の寒さは比較にならない。

（京都和北海道的寒冷无法相比。）

○ 日本語の学習や日本研究のための機会も 30 年前に比べれば比較にならぬほど増えた。

（学习日语或进行日本研究的机会跟 30 年前相比是不可同日而语了。）

4. 面白いことに、これらの文がいずれも特定の主語を想定することの難しい“無主語”文である。

本句中の“～ことに”接在动词的过去时“た”、形容词和形容动词连体形后面，用来表示对后续事物的一种评价，前面往往用表示情感性的词，动词常用“驚いた”“困った”“ほっとした”等，形容词、形容动词常用“嬉しい”“憎たらしい”“残念な”“不思議な”等，可以翻译为“……的是……”。例如：

○ 火事になったが、幸いなことに火がすぐ消し止められた。

（发生了火灾，但幸运的是火很快就被扑灭了。）

○ 驚いたことに、私の祖父と彼女のおじいさんは小学校時代の友達だったそうだ。

（让人惊讶的是，我爷爷和我女朋友的爷爷是小学时代的朋友。）

○ 不思議なことに、会社を辞めてから、食欲が良くなった。

（不可思议的是，辞去公司工作之后，我的食欲变好了。）

另外句中的“いずれも”类似于“どれも”“どちらも”，表示（无论哪一个）都、全。例如：

○ 三者いずれも完全ではない。

（三者都不完美。）

○ 料理の名称は不明ですが、いずれも美味です。

（菜的名称虽然不知道，但是每道都很美味。）



練習

一、次の漢字に適切な読み方をつけなさい。

- | | | |
|--------|--------|---------|
| 鑑賞 () | 享楽 () | 類似 () |
| 冷淡 () | 墮落 () | 恥辱 () |
| 嫌忌 () | 潔癖 () | 嗜好 () |
| 逢着 () | 無我 () | 獵師 () |
| 対峙 () | 沈淪 () | 臨場感 () |

二、次の片仮名を適切な漢字に変えなさい。

- | | |
|--------------------|--------------------|
| 1. キビな享楽 () | 2. 一種のホンノウ満足 () |
| 3. 事実をハッケンする () | 4. チュウチョしない () |
| 5. シンコクなる描写 () | 6. カンタン相照らす () |
| 7. カイシンの握手を交わす () | 8. ヒサンな境界 () |
| 9. セケンの反感を買った () | 10. ジュンシンなる芸術家 () |

三、次の言葉を使って、短文を作りなさい。

1. ~ 得る
2. 骨を折る
3. ~ ことに
4. いずれも
5. 比較にならない

四、文章（一）を読んで次の問いに答えなさい。

問一 ① [世間の反感を買う] の [買う] の意味として、次の中からひとつ選びなさい。

- ① 品物や金とひきかえに、自分の望みの品物を得る。
- ② 悪い結果を招く。
- ③ 進んで身に引き受ける。
- ④ 価値を認める。尊重する。

問二 ② [肝胆相照らす] とはどういう意味か。



- ① 簡単に相互の罪を告白しあって和合する。
- ② 邯鄲の夢を同時に見て互いに照合し意見が一致する。
- ③ 感嘆の声を発して互いに顔を照らしあい意気投合する。
- ④ 肝臓と胆嚢とが照らしあうように心に隠すところなく交わる。

問三 本文の内容に合致しないものを次の中からひとつ選びなさい。

- ① 芸術家なのに科学を理解し愛好する人がいないではない。
- ② 研究に没頭している科学家の心理状態は樵夫が大樹を倒す時に味わう一種の本能満足と類似の点がある。
- ③ 作品の創造に没頭している芸術家の心理状態は天性の猟師が獲物をねらっている瞬間に経験する機微な享楽と類似の点がある。
- ④ 科学家の天地と芸術家の世界とはぜんぜん相容れぬものである。

五、文章（二）を読んで次の問いに答えなさい。

問一 次の中から「時間」の意味がほかの三つと違うものを選びなさい。

- ① 授業の時間に遅れないように目覚し時計を使っている。
- ② どの国でも時間を守ることは社会人としての基本だ。
- ③ 忙しく食事をする時間もない。
- ④ 約束の時間に必ず来てくれ。

問二 文章の中に出た例文を正しく理解していないのは次のどれですか。

- ① 「先生、お時間です」とは講師が発言する番が来たという意味です。
- ② 「ちょうど時間になりました」とは講師が話しを終わる予定の時間になったという意味です。
- ③ 「雨が降ったら涼しくなった」とは雨が降れば涼しくなると言う意味です。
- ④ 「合格できて嬉しいです」話し手が合格できて嬉しく感じたと言う意味です。

問三 文章の内容とあっているのはどれですか。

- ① 「あ、もう時間だ！」のような普段よく使う言葉はじつは意味が曖昧で、なかなか理解しにくいのです。

② 「あ、もう時間だ！」のような文が理解しにくいのは主語が欠けているからです。

③ 「鍵がかかっている！」「雨が降ったら涼しくなった」のような臨場感に溢れる表現ができたのは「話して側の視点」を中心とした発想があるからです。

④ 日本語の表現や文法・語彙・意味の特徴を考えるときには、「話して側の視点」を中心とした発想を心に入れて別々に観察する必要があります。

読解技法

日语专业八级考试是国家教育部为贯彻《高等院校日语专业高年级阶段教学大纲》而举办的一项高水平日语考试，主要面向全国高校日语专业的学生，它是迄今为止日语学科最具权威性的一项考试。由于日语专业八级考试比日本财团法人日本国际教育协会、日本国际交流基金主办的日语能力一级考试更能客观公正地评定中国学生的日语实际水平，因此受到了考生和各用人单位的广泛关注。

阅读理解能力是日语专业学生的基本功之一。日语专业八级考试的阅读理解只有一篇长文，主要来自日本高中升大学的考试题或辅导题，所选文章题材广泛，与日语专业四级考试中的文章相比文字表达更具书面语化，内容更为抽象，难度有了很大提高。日语专业八级考试阅读理解考察的不仅仅是考生的日语语言水平，更重要的是其分析、逻辑推理能力。可以说加强日语和母语的综合知识与素养对提高日语专业八级考试阅读水平至关重要。这就要求广大考生在平时的学习中就要广泛涉猎，博览群书，不仅要专和精，也要广而杂。古人云：“汝果欲学诗，工夫在诗外”，可谓一语中的。

一篇文章没看懂，很大程度上是没看懂一些句子。句子是表达语义的基本单位，是阅读的关键。针对日语专业八级考试文章句子结构复杂、内容抽象难懂的基本特点，学会对日语句子的结构进行分析就显得尤为重要。因此我们应该学会从句法的角度对日语的各种句子结构进行分析，准确地理解每个句子的意思。但光这样难免“只见树木，不见森林”，学会从篇章法的角度对句群、段落和文章的逻辑关系和层次结构进行分析也是非常必要的。只有从小至句子的微观和大到文章的宏观两个方面对文章进行把握，才能既见树木又见森林，从根本上提高日语阅读水平。



日语单句的分析

日语区别于汉语和英语的一个最大特点是句子以谓语为中心，主语并非句子的必要成分，一个具有成分关系的日语句子里可以没有主语，但却不能没有谓语。因此我们可以从句子是否具有谓语为依据，首先把日语句子分为谓语句和非谓语句，谓语句又可分为单句和复句，复句包括包孕句、主从句和并列句。非谓语句由一个或多个单词构成，结构非常简单，因此我们主要分析日语的谓语句，即单句和复句。首先对单句进行分析。

单句是指只有一层成分关系的句子。日语最大的特点是谓语在句子的最后，句子以谓语为中心。我们对单句的分析可以先从谓语着手，先从句子后面找到谓语部分，然后以谓语为中心分别找到与之有主谓关系、补充说明关系、连用修饰关系和动宾关系的主语、补语、状语和宾语。由于定语总是包含在其它句子成分之中，所以最后可在以上成分中分析定语。

我们先分析一个非常典型的单句：日本に来たばかりのスミスさんはゆうべ東京大学の図書館で山田さんに日本語を教えてもらいました。

分析步骤如下：

(1) 先从句子后面找出句子的谓语“教えてもらいました”。

(2) 以谓语为中心找出与之有主谓关系的主语“日本に来たばかりのスミスさんは”，有补充说明关系的补语“東京大学の図書館で”“山田さんに”，有连用修饰关系的状语“ゆうべ”，有动宾关系的宾语“日本語を”。

(3) 分析包含在以上句子成分之中的定语。主语中的定语“日本に来たばかりの”，补语中的定语“東京大学の”。

本书分析句子成分的记号为：

主语 _____ 谓语 _____ 宾语 _____ 补语 _____

状语 [] 定语 () 独立语

例句成分关系用符号标记如下：

(日本に来たばかりの)スミスさんは[ゆうべ][(東京大学の)図書館で]山田さんに日本語を教えてもらいました。

下面我们以上分析单句的方法来分析第十七课中两个较难的单句。

○何よりも(人間の)(自然としての)「立つ」ことは、(常に一切の哀歎を収めた世界に対する)(ひとつの)抵抗である。

○(人間を取り囲む)(もろの)対象は、人間より「はるかに」安らかに、地の上に横たわっている。

日语句子中谓语是必不可少的，其他成分则未必齐全，因此面对一个难句首先应该从谓语着手，顺藤摸瓜找出与之搭配的其他成分。结构复杂且长的定语是导致日语句子费解的重要因素之一，搞清定语与被修饰体言之间的层次关系也很重要。

言語文化コラム

節 分

節分とは文字通り「季節の分かれ目」を意味するが、旧暦ではこの日が冬の終わりで、立春の前日になる。現行歴では2月3日もしくは4日にあたる。大晦日、1月6日、1月14日とともに年越しの日とされ、これらとの混交も見られるが、現在の節分の行事は全国的に炒り豆をまく追儼の行事と門口にヤイカガシ（ヤキカガシ）を掲げる習慣をいう。

追儼とは悪鬼を払い疫病のもとを除いて、新年を迎える儀式で、宮廷年中行事のひとつである。大晦日の大祓えについて行われた大儼、鬼やらいとも呼ばれた。日本には文武天皇の頃、中国から伝わった。大晦日の夜、大舎人寮の舎人が鬼の役をつとめ、群臣が桃の弓、葦の矢、桃の枝をもって鬼を追う。宮廷行事としては中世にすたれたが、近世になり、諸国の神社で節分に追儼祭が行われるようになった。

寺社や民間で行われる豆まきの唱え文句は地域によって異なっているが、「鬼は外、福は内」が一般的で、宮廷行事の鬼はらいに由来すると考えられる。豆まきも豆の呪力に頼るものだが、豆で身体を撫でてからその豆を捨てる風習もあり、これは災厄の祓いと言える。その年の健康を祈るために豆を自分の年の数だけ食べるという習慣もある。豆まきは子供を交えての遊びの感覚があり、都会の家庭でもよく行われていたが、狭い室内に各種電気製品や家具が増えた今日では後の掃除が面倒ですたれてきた。

ヤイカガシは、焼いた鰯の頭など臭いの強いものを鋭い葉をもつ柊などの枝に刺して家の入り口に掲げるもので、鬼の目突き、鬼おどしなどとも呼ばれ、邪霊防御の目的をもつ。

節分は追儼の要素が濃い、節分の夜には霊が訪れると考えられて、ヤイカガシはそのための物忌をしているしるしであり、豆は神へ供物であるという説もある。